



第189号

発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ② 新任あいさつ
芝蘭会総会・評議員会・理事会
第14回京大病院IPS細胞・再生医学研究会
③ 校友会・KMS・FUNDだより
④ 京大病院臨床研究推進セミナー
2016 西日本医科学学生総合体育大会
⑤ 支部だより 東京 香川
⑥ 支部だより 和歌山 島根 神戸
⑦ 支部だより 岐阜 大阪 阪神
⑧ 人事異動・会員計報

芝蘭会会長 医学科研究科長



上本 伸二

平成28年4月に甚大な被害を生じさせました熊本地震に心よりお見舞い申し上げます。また、地震発生に際しましては迅速に対応いたしたいと京都大学医学部附属病院DMAT関係の皆様には御礼申し上げます。さらに、九州在住の芝蘭会会員の皆様におかれましては、助け合いながらこの苦難を乗り越えられたことと存じますが、会報紙の紙面を借りて会員の皆様に御礼申し上げます。昭和63年卒業の村田宮彦先生が教授職を務められております東海大学(熊本キャンパス) 基盤工学部医療福祉工学科におきましても熊本地震によつて甚大な被害にあわれ、臨床工学士を目指す学生たちの病院での臨床実習ができないう事態が生じました。村田先生から芝蘭会会長に支援の要望が参りましたので、九州地方の芝蘭会支部の皆様へ学生実習の受け入れをお願いしたところ、複数の施設から学生実習受け入れの申し出をいただくことができました。ご尽力いただきました会員の皆様には深く感謝申し上げます。同時に、非常事態における全国の芝蘭会会員の連携の強さを、われわれの誇りとして実感しております。

今回は、前回の会報紙で述べさせていただきまして、会員の皆様は、会員の皆様の大きな関心事である新専門医制度・関係病院の医師不足について述べさせていただきます。一般社団法人日本専門医機構は、理事長を含めて理事会構成員が

多くの良質な修練医確保を

に対して新専門医制度においては外科専門医育成施設における修練医育成可能人数は2,000人余りあります。これでは明らかに需要(修練施設数)と供給(修練医人数)のバランスは崩れており、修練教育システムの完備している都心部の修練施設に外科医が集まり、地域の外科医療に支障が出ることは明らかです。根本の問題は日本全体における医師不足にありますので、この問題を無視しての新しい専門医制度の構築は引き続き課題であると考えております。現状の医療現場において医師数が

が一般の議論の場に出るようになってからは誰もが認めざるをえなくなりました。わが国の人口1億2,500万人に対して医師数30万人とすると、人口千人当たりの医師数は2.4人となり、OECDの平均医師数の3.3人を大きく下回り、現状ではOECD34か国中29位となっております。都会である京都市で暮らしていても医師不足の実感はないかもしれませんが、地域医療を担った経験のある会員の皆さんにはこの理解いただけるのではないのでしょうか。確かに、全国の医学部定員増加のお

して働ける環境整備が不可欠であり、ひいては、この環境整備が男性医師の職場環境改善につながります。再び外科学会の例を参考にして恐縮ですが、外科学会会員のアンケート調査において(4万人の会員中8千人が回答)、1週間の就業時間は40才代外科医で80時間、30才未満では99時間、大学病院勤務者では98時間でありました。つまり若手外科医の献身的就業で外科医療は成立しており、これは美談でもなんでもなく、極めて憂慮すべき状況です。したがって、本

何故でしょうか。患者目線での医療安全の観点からチーム医療体制が不可欠となり、多くの関係病院における各診療科が少人数体制では維持できなくなったことが一つの大きな要因ではないかと思えます。もちろん、チーム医療体制は医療安全と女性医師職場環境整備のキーワードであり、これがなければ社会に貢献できないのであれば、京都大学医学部と関係病院は現状の多くの施設を維持するためにはさらに多くの良質なマンパワーを確保する以外にないと考えます。困難な状況の中ですが、わが国の医学と医療を先導する京都大学医学部・附属病院 関係病院の

大きく入れ替わる事態となり、さらに新しい理事会では当初の予定であった来年度からの新専門医制度スタートを最低でも1年間は延期することが決定されました。やはり心配していたように、修練施設の選定方法に明らか問題が残っており、このまま新専門医制度を強行すれば地域で修練する医師が減少し、初期研修制度と同様に地域医療の崩壊に拍車をかける危険性が高いことが改めて議論となりました。例えば、私が所属する外科学会においては毎年800人、900人の外科専門医を育成していますが、これ

充足していれば、若い専門医の育成は人材と施設が整備された都心の病院で行うことに誰も不満を言わないのではないのでしょうか。しかし、医師不足が顕著な地域医療の現状では若い修練医も地域医療に貢献してほしいというの切実な要望であり、本来は切り離して議論すべき若手医師の教育と医療の社会貢献を一体として議論せざるを得ない困難な状況に陥っております。これまでは声高に言われなかったわが国の医師不足問題ですが、先進諸国(OECD)における人口当たりの医師数比較という単純明快な事実

かげで新規の初期研修医数は8,600人前後に増加し、全国の医師数は毎年4,000人、5,000人増加しております。一方で、日本の人口は毎年20万人、40万人減少していることを計算すると、最短で18年後には人口千人当たりの医師数は3.4人となります。しかし、増加する医師の40%近くが女性医師であることは極めて重要な現実であり、女性医師の職場環境が欧米に比べて極端に劣悪なわが国の状況では単に医師数を増加させるだけでは医師不足の現状を打破することはできません。女性医師が生涯を通して

ランスを安定させるためには、まだまだ遠い道のりだと覚悟するべきだと思います。京都大学医学部の関係病院における医師不足も同様に深刻です。京都大学医学部附属病院は初期研修医の半数以上を他大学卒業生から迎え入れ、さらに大学院生として毎年180人前後の医師が入学しており、結果的にはおそらく医学部入学生定員105人の2倍、2.5倍の医師を附属病院と関係病院で確保していると思います。他大学に比べてこれだけ圧倒的なマンパワーを有しながら、それでも医師不足になるのは

最後に、大変おめでとうございます。文化功労者で文化勲章を受章されている本庶佑名誉教授が第32回京都賞を受賞され、11月10日に授賞式が行われます。本庶先生のますますのご活躍と後進のご指導をお願いする次第ですが、さらに若い世代の芝蘭会会員の大きな飛躍を祈念いたします。

先制医療・生活習慣病研究センター完成



ハイメディックの伊藤代表取締役会長に感謝状を贈呈



竣工した先制医療・生活習慣病研究センター(ハイメディック棟)



テープカットをする(左から)稲垣病院長、伏見代表取締役、伊藤会長、山極総長、湊理事、上本医学研究科長

する。」という趣旨に株式会社ハイメディックが賛同され、同社から京大病院の敷地内に「ハイメディック棟」の寄附を受けて運用を開始することになった。

先制医療・生活習慣病研究センター「ハイメディック棟」では、同社の検診事業で得られる健康者の膨大な診療データを蓄積し、得られた医療情報をデータベース化して大学と企業が共同で研究を行うことで生活習慣病の疾患メカニズムの解明や早期診断法の開発を目指していくことを目的としている。

記念行事では、竣工した建物を前に株式会社ハイメディック、株式会社安藤・間、株式会社日建設

本庶佑名誉教授が京都賞を受賞



本庶佑名誉教授が京都賞を受賞することになりました。

同賞は、財団法人稲盛財団が褒賞する「科学や文明の発展、また人類の精神的深化・高揚に著しく貢献した方々の功績を讃える国際賞」で、先端技術部門、基礎科学部門、思想・芸術部門の各部門に1賞、計3賞が贈られるものです。今回で32回目となります。

本庶名誉教授の受賞部門は「基礎科学部門」であり、対象となった業績は「抗体の機能性獲得機構の解明ならびに免疫細胞制御分子発現と医療への展開」です。「クラススIα抗体の機能獲得機構とそれに働くATDを同定して抗体の機能獲得メカニズムを解明し、PD-1

PD-1分子の同定と機能解析によって新しいがん免疫療法に道を拓いた。その成果は広く医学・生命科学に影響を及ぼすとともに、医療へと展開されて人類の福祉に多大な貢献を果たしている」と評価されました。なお、授賞式は、2016年11月10日に国立京都国際会館で行われる予定です。(京都大学HPより)

新任あいさつ

床研修を受けました。平成元年に京都大学心臓血管外科教室に入局し、平成2年からは社会保険小倉記念病院心臓血管外科で心臓血管外科医としてのトレーニングを受けました。平成6年からは米国ニューヨーク州立大学バッファロー校ヘリサーチフ

は米国ベイラー医科大学でいずれもクリニカルフェローとして臨床に従事しました。平成21年からの岩手医科大学での講師・准教授としての勤務を経て、平成23年から国立循環器病研究センター心臓血管外科部門血管外科部長に就任し、主として大動

あつたものが、現在は約6万例まで増加しました。その内容においても、ステントグラフト留置術やTAVIに代表されるカテーテル技術を中心とする治療法が出現してきたために、治療体系が大きく変容する時代になっております。また、安全な標準的

urgencyを育成していく責務があると考えております。当教室は、東は静岡から西は熊本までの地域基幹病院である関連病院を持ち、合計すると全国の開心術実施症例の約10%を占める症例を誇り、研修の場を提供することはもちろん

多施設研究を実施することについても賛的な環境を有しております。我々は、芝蘭会会員の皆様に心配や迷惑をおかけした種々の不祥事により、大学での臨床活動にしばしば支障を来してきた歴史を反省しなければなりません。結果として、京大病院での当教室の臨床活動は、近隣の大学病院と比して症例数等でやや見劣りすることが否めません。当科坂田前教授が残された「技術を伴わない医療は欺瞞である」を誓詞とし、教室の世界的業績であるKyoto techniqueを凌駕する革新的な心臓血管外科技術の発信を行うことを目標として努力して参ります。何卒、芝蘭会の諸先生方におかれましては、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

革新的心臓血管外科技術へ

大学院医学研究科 器官外科学講座
心臓血管外科学教授

湊谷 謙司



平成27年7月1日付で、京都大学大学院医学研究科心臓血管外科学の教授を拝命致しましたので、芝蘭会会員の諸先生方にあいさつ申し上げます。私は、昭和62年に京都大学医学部を卒業し、天理よろづ相談所病院で2年間臨

エローとして、平成8年からカナダ・トロント総合病院ヘクリニカルフェローとして留学しました。平成9年からは国立循環器病研究センターで成人・大動脈疾患の外科臨床に携わりました。平成12年からドイツ・ハノーバー医科大学、平成13年から

脈外科の臨床に携わって参りました。心臓血管外科の歴史は浅いものの、播磨期を経てようやく成熟期に入ってきた近年の成績向上は著しいものがあります。開心術の症例数も私が研修医であったころには全国で約2万例程度で

技術が確立したこともあり、大学病院と地域の基幹病院が主たるプレーヤーであった時代から、心臓病を専門とするハートセンターが勃興してきた状況もあります。この中で、京大心臓血管外科学教室は、将来の日本の指導者たる優秀な academic

多施設研究を実施することについても賛的な環境を有しております。我々は、芝蘭会会員の皆様に心配や迷惑をおかけした種々の不祥事により、大学での臨床活動にしばしば支障を来してきた歴史を反省しなければなりません。結果として、京大病院での当教室の臨床活動は、近隣の大学病院と比して症例数等でやや見劣りすることが否めません。当科坂田前教授が残された「技術を伴わない医療は欺瞞である」を誓詞とし、教室の世界的業績であるKyoto techniqueを凌駕する革新的な心臓血管外科技術の発信を行うことを目標として努力して参ります。何卒、芝蘭会の諸先生方におかれましては、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

多くの後進を育てて恩返しを

システム神経薬理学分野
(薬理第一講座) 教授

林 康紀



2016年6月1日付で、医学研究科システム神経薬理分野教授を拝命いたしました。薬理学との出会いは、全く偶然でした。1984年に本学に入学すると、「Geneゼミ」という自主ゼミに所属し、Molecular Biology of the Cellという分子生物学の教科書を通

にご紹介頂いたのが、薬理学教室の三輪聡一先生(現北海道大学教授)でした。三輪先生にはビペットの持ち方から、研究に対する構えまで、様々なことを教えていただきました。その後私が大学院に入学した頃、ほぼ入れ替わりで、薬理学教室主任の藤原元始先生が御退官されたのです

が、大学院入試に受かったことをご報告に行ったところ、顔をくしゃくしゃにして喜んで下さったことをよく覚えております。大学院では、中西重忠先生、成宮周先生の御指導でトロポキサン受容体などのクロロニングのお手伝いや、逆にクロロニングはされたが、特性

そんなある日、マサチューセッツ工科大学と理研が協定を結んでラボを持つことになったので、日本人で記憶を研究している人を研究室主宰者として探しているというお話をいただきました。アメリカに残ることに迷ったのですが、またとない機会と考え、お受けすることにいたしました。

現在は、記憶の神経回路メカニズムを解明するため、分子生物学、イメージング、そして動物行動実験を三位一体とし、シナプス可塑性の分子メカニズムと、海馬セルアセンブリの可視化による特徴解析を中心とした研究を行っております。

上本会長再任など承認

芝蘭会総会・評議員会・理事会



5議案が承認された芝蘭会総会・評議員会・理事会

平成28年6月25日(土)芝蘭会館別館に於いて芝蘭会総会・評議員会および理事会が開催された。

議案は、(1)平成27年度事業報告について、(2)平成27年度収支決算並びに財産目録について、(3)会長、副会長、理事、評議員の選任について、(4)第4回代議員選挙について、(5)公益目的支出計画実施報告書の提出についての5件で、議案(1)、議案(2)につ

者は平家俊男氏(昭和54年卒、京都大学大学院医学研究科発達小児科学分野教授)が推薦され、総会にて選挙を行ったところ、信任多数で、後任の理事に平家氏が選任された。また、理事の上本伸二氏、稲垣暢也氏、菊池晴彦氏、佐古伊康氏、相馬俊臣氏、二本隆氏、大高道也氏、野口正人氏、成宮周氏、隠岐尚吾氏、永田泉氏が本総会の終結をもって任期満了となるため、同人を理事に再任することが提案され、承認された。

評議員については、竹本勇氏、日野原重明氏、榑正幸氏、田中守氏、柴田史郎氏、吉田治義氏、清水克時氏、堂前尚親氏、小西裕氏、藤原久義氏、小笠原敬三氏、木村徹氏、杉山知行氏、寛善行氏、飯原弘二氏、矢野謙二氏、大城清氏、吉田修氏、遼見公雄氏、小柳義夫氏の再任、また、秋田支部の平田温氏の後任に山本雄三氏、長野支部の草間昌三氏の後任に原寛美氏、石川支部の久藤豊治氏の後任に小坂健夫氏、神戸支部の吉田耕造氏の後任に坂田隆造氏を選任することが提案され、承認された。

議案(4)については、第4回代議員選挙の経緯及び結果について説明が行われ、承認された。

議案(5)については、京都府知事へ提出する公益目的支出計画実施報告書について説明が行われ、承認された。

5講演、熱心に聴講

第14回京大病院iPS細胞・再生医学研究会



開会挨拶する稲垣病院長



特別講演を行う後藤名古屋大教授

京都大学医学部附属病院は、京大病院iPS細胞・再生医学研究会を去る7月1日(金)に芝蘭会館で開催した。同研究会は、京大病院でのiPS細胞、ES細胞及び体性幹細胞などをを用いた再生医学研究の向上並びに

成果の普及を図り、医療の発展に貢献することを目的として平成21年11月に発足。第14回目となる今回の研究会では、学内外から100名を超える医療関係者等が参加した。

研究会では、稲垣暢也

病院長の開会挨拶の後、小泉智信所長(アステラス製薬株式会社 再生医療研究所)より「アステラス製薬の再生研究への取り組み」について一般講演が行われた。

また、齋藤潤准教授(京大 iPS 細胞研究所 臨床応用研究部門)より「iPS 細胞を用いた先天性免疫疾患の解析について」について、曾根正勝 特定准教授(京大

医学研究科 代謝制御学講座)より「ヒト iPS 細胞を用いた副腎皮質発生・分化機構の解明」について、中村英二郎 特定准教授(京大医学研究科 メディカルイノベーションセンター DSK プロジェクト)より「疾患特異的 iPS 細胞を用いた遺伝性腫瘍に対する創薬研究」について、それぞれ学術講演を行った。

引き続き、後藤 百万教授(名古屋大学大学院医学系研究科 泌尿器科学)より「当科における下部尿路機能障害に対する再生治療の開発」について特別講演が行われ、参加者は熱心に聞き入っていた。

京都大学医学部
校友会・教育研

kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

で「点滴」という言葉を
知っていました。高熱を
出してひきつけを起こし
真夜中に病院に駆け込ん
だ時に、小児科の先生が
息子の志に結びついたと

京大、大舞台で健闘

2016西日本医科学生総合体育大会

第68回西日本医科学生総合体育大会は、徳島大学が代表主幹校を務め、西日本中から43校が集まり、優勝を目指して覇を争いました。1万人近くの学生達が日頃の成果を存分に発揮し大会を盛り上げる中、京都大学も昨年度に劣らぬ健闘を見せ、一年に一度の大舞台に花を咲かせました。

ラグビー部 ラグビーワールドカップの盛り上がりも記憶に新しい中、私達ラグビー部は準優勝という結果を残しました。15人で競技を行うラグビーというスポーツですが、部員が17人という人数難の中、逆に全員がレギュラーだというポジティブな心意気で大会に臨みました。決して楽ではない厳しい練習をこの仲間たちとしてきて、最後は大会で決勝戦という大舞台を戦えたことは非常に良い思い出となりました。優勝を目指し次の1年も頑張っていきたいと思っています。

水泳部 今年の水泳部は、大会のレベルが年々高騰する中、男子総合4位入賞という好成績を残すことができました。チームの総力戦で争うリレー種目では、400mメドレーリレー、200m

フリーリレー、800mフリーリレーのすべてにおいて京都大学史上歴代1位のタイムを記録し、表彰台に上るといった活躍を見せました。このうち400mメドレーリレー、200mフリーリレーでは西医体の大会新記録を更新する快挙を達成しました。個人種目でも、計10種目8名が決勝に進出し、大会を盛り上げました。

ともに日々の練習を乗り越えてきた仲間がレースで次々にベストを出していく姿は、個々のレベルによらず本当に素晴らしいものでした。来年に向けて、次の一年間も互いに切磋琢磨していきたいと思っています。

他の部活は結果のみ掲載します。

（文責：3年生 中 悠太郎）

卓球部

男子団体

1回戦 京都大学 — 愛媛大学 4 — 3

2回戦 京都大学 — 名古屋大学 4 — 1

3回戦 京都大学 — 宮崎大学 0 — 4

女子団体

1回戦 京都大学 — 名古屋市立大学 2 — 3

ヨット部

総合9位

ハンドボール部

決勝トーナメント進出

決勝トーナメント1回戦

京都大学 — 神戸大学 21 — 29

（文責：3年生 池尻 憲紀）



「第68回西日本医科学生総合体育大会」ポスター

関連病院の支援者も参加可能

初の京大病院臨床研究推進セミナー

臨床研究総合センター（IACCT）では、先端的な医薬品・医療機器の開発のため、医師主導治験や先進医療など、介入・侵襲を伴う臨床研究の支援をしています。質の高い臨床研究実施の基盤として、研究者や研究支援者に対する教育研修は欠かせない要件であり、主にIACCT所属の研究支援者を対象に、定期的にセミナーを開催しています。一方、拠点大学・基幹病院として、京都大学・京大病院には、このような教育研修の機会を、関連病院等学外にも提供することが求められています。

去る7月20日（水）に、この度、総合臨床教育・研究センターと共催で「京都大学医学部附属病院臨床研究推進セミナー」と銘打って、関連病院等の研究支援者にも参加可能なセミナーを実施することにしました。

製作所でMRIや近赤外光機能イメージング装置、分子イメージング装置等の研究開発に従事され、科学技術・学術審議会専門委員を歴任されるなど、医療機器開発や産官学連携に対する豊富な経験と見識をもつ、平成23年より、医療機器開発支援室長として、先端医療機器開発・臨床研究センターの運営にたずさわっていらっしゃいます。

清水先生には、「医療機器開発と臨床研究」という演題でご講演を賜りました。先生ご自身のMRI開発のご経験談にはじまり、先端医療機器

開発・臨床研究センターの施設のご紹介、国内外の医療機器開発の現状、医療機器と医薬品開発におけるリスクの考え方の違い、医療機器開発における規制要件、医療機器開発における臨床研究や治験の実態と保険収載を

目指した試験計画の重要性をご講演いただき、最後に、京都大学における質の高い臨床研究の実施と革新的な医療機器開発には、今後もこの一層の連携が必要であることを強調されお話を締めくくられました。

IACCT・総合臨床教育・研修センターでは、今後「京都大学医学部附属病院臨床研究推進セミナー」を年に数回の頻度で開催する予定です。セミナーの開催は、京大病

院や総合臨床教育・研修センター、IACCTのホームページでご案内します。関係の皆様には、ぜひご参加下さいますようお願いいたします。

い申し上げます。（文責：医学部附属病院臨床研究総合センター早期臨床試験部 南学）

硬式テニス部

男子団体

1回戦 京都大学 — 大阪市立大学 5 — 2

2回戦 京都大学 — 山口大学 4 — 5

女子団体

1回戦 京都大学 — 鳥取大学 1 — 3

軟式テニス部

男子団体

1回戦 京都大学 — 大分大学 3 — 2

2回戦 京都大学 — 長崎大学 0 — 3

女子団体

1回戦 京都大学 — 川崎医科大学 3 — 0

2回戦 京都大学 — 鹿児島大学 1 — 2

サッカー部

1回戦 京都大学 — 金沢医科大学 0 — 0

（4 — 5）

準硬式野球部

1回戦 京都大学 — 長崎大学 3 — 9

バスケットボール部

男子団体

1回戦 京都大学 — 福井大学 44 — 35

2回戦 京都大学 — 浜松医科大学 45 — 52

バレーボール部

男子団体

1回戦 京都大学 — 山口大学 2 — 0

2回戦 京都大学 — 浜松医科大学 1 — 2

バドミントン部

男子団体

1回戦 京都大学 — 島根大学 0 — 3

女子団体

1回戦 京都大学 — 山口大学 0 — 2

弓道部

男子部門 36位

女子部門 35位

「京都大学医学部記念講堂・歴史資料館基金」募金の現状

平成28年8月31日（水）現在

・「三井住友銀行」利用のご寄付
310人（法人を含む）
56,290,000円
うち、50万円以上のご寄付は56人（法人を含む）

・「ゆうちょ銀行」利用のご寄付
251人
5,967,000円
うち、50万円以上のご寄付は2人

計561人（法人を含む）
62,257,000円

健康科学フォーラム開催



日野原先生を中心に記念撮影が行われた
東京支部総会

支部だより

【東京】

平成 28 年 2 月 6 日 (土)

学会館にて、平成 27 年度芝蘭会東京支部総会ならびに第 14 回「京都大学健康科学フォーラム」が開かれました。二木隆先生、大高道也先生による進行のもと、日野原重明先生の支部長あいさつと全員による黙祷に続き、木原正博先生の芝蘭会本部代表あいさつおよび報告が行われ、現在の病院の運営体制や、学部および大学院における教育改革の取り組みなどについて述べられました。

その後、第 14 回「京都大学健康科学フォーラム」として、3 人の先生方が講演を行われました。一つ目の講演は、京都大学大学院医学研究科社会疫学分野教授である木原正博先生による、「社会疫学 social epidemiology とプラグマティズム」と題されたものでした。木原先生は、当初慢性疾患のリス

入効果の評価法などを場面に応じて使い分けていくというのを、例を挙げながら説明して下さいました。実際に行われている研究として、ザンビア・コンゴ・タイ・イエメン・エジプトなど発展途上国での HIV/AIDS の行動学的・予防学的研究について述べられました。日本においては、木原雅子准教授を中心に、WYSH Project というプロジェクトに力を入れておられ、全国から小中高の教員を集めて、HIV/AIDS の予防方法を含め、現代の若者が直面する様々な問題の解決につながる教育法の研修を行っていると言われました。

「細胞を用いたがん免疫治療を例にとつてご説明されました。細胞とは、ヒトの抹消血中に含まれる T 細胞の中に数パーセントのみ存在する、T 鎖の TCR を発現する T 細胞のことで、がん化に伴う細胞の変化に対して敏感に感知し迅速に生体防御反応を誘導することが知られているそうです。この T 細胞を、腹水の貯留したがん患者の腹腔に直接注射したところ、がん細胞の周りを T 細胞が取り囲む様子が見られ、4 回の注射を経

て、血性であった腹水が透明にまで回復したと語られました。次に、免疫チェックポイント阻害剤治療について触れられました。この治療法はこれまでの抗がん剤と全く違う仕組みで作用するようで、腫瘍細胞の微小環境で起こっている抑制機構(免疫チェックポイント)を阻害して T 細胞に対するブレーキを外すことで内因性の腫瘍免疫を再活性化させます。腫瘍に対するダイナミックな免疫反応の中で、免疫チェックポイントになるス

新しいがん免疫治療と、このように個々により異なる遺伝子変異を標的にした治療であり、個人のゲノム情報をビッグデータとして取りまとめ、その情報をもとに患者の層別化医療に役立てようとする Precision Medicine かな

ら、さらに踏み込んで一人ひとりのゲノム情報に基づいた治療を提供する医療(Personalized Medicine)へと向かいつつあるそうです。しかし、個別化治療に関して、克服すべき課題もいくつかあり、特に安全性の評価が通常の医薬品とは全く異なる点が未解決であるとおっしゃられていました。そのような課題を乗り越えて、更に免疫応答の理解を深め、その上でより積極的に治療に活用していきたいという垣見先生の熱い思いとともに講演を終えられました。

その後、厚生労働省医系技官である松浦祐史先生が「キラキラネーム」とその影響」という題目で報告を行いました。松浦先生は平成 24 年卒のお若い先生で、研修医時代の発表として行ったこちらの報告を雑誌に投稿したところ、様々なソーシャルメディアおよび週刊誌などに取り上げられ、注目を浴びたことから、今回の発表に至られたということでした。キラキラネーム児、つまり今どきの名前の子供と、そうでない子供を比べたところ、キラキラネーム児の方が深夜に ER を受診する割合が高かったとのことでした。この結果について松浦先生は、親が子供に読めない名前をつける要因の一つとして

公共空間に対しての配慮不足があるとの指摘があり、なるべく診察時間内の受診が求められている病院という公共空間において、診察時間外の受診に結びついているのではないかとこの見解を語られました。メディアに取り上げられたことによりさまざまな方面から反響があったお話を、ユーモアを交えてお話しされ、会場は笑いに包まれていました。

講演が終わり、場所を移して記念撮影が行われた後、懇親会が開かれました。先生方は近況を報告したり、学生時代に感謝の意をもって、東京支部総会の報告を終わらせていただきます。(文責：5 回生 中田 愛)

甲状腺機能異常などで講演



近況報告も行われた香川支部総会

【香川】

平成 28 年 6 月 18 日 (土)

JR ホテルクレメント高松において、香川支部講演会・総会が開催されま

寛治先生が、「甲状腺機能異常と TSH 受容体抗体」京大での研究生活をふりかえって」という演題で講演されました。甲状腺受容体抗体にはレセプターを刺激する細胞内 CAMP を増加させるアゴニストタイプ (TRAb) と、逆に低下させるアンタゴニストタイプのプロキニング抗体 (TRBAb) があります。これらの抗体は TSH が受容体に結合するのを阻害するた

体に検出できることを発見されました。この方法によると、発症の数ヶ月から数年前には抗体陽性であることがわかりました。また、妊婦において抗体の移行により胎児が一過性の甲状腺機能低下が現れる可能性があるか、ということもわかるようになったそうです。現在では、TSH 受容体抗体の測定は、甲状腺中毒の評価、バセドウ病の活動性評価、妊婦の評価、さらに EOGD (euthyroid ophthalmic Graves' disease) や Hypothyroid Graves' disease、阻害型 TSH 受容体抗体陽性甲状腺機能低下症などの評価に用いられています。

続いて、香川大学医学部泌尿器・副腎・腎移植外科教授の寛善行先生座長のもと、京都大学大学院医学研究科内科学講座循環器内科学分野教授の木村剛先生が、「大動脈弁狭窄症の新しい治療戦略―薬物治療によるコントロールと外科治療・カテーテル治療戦略のタ

という考えのもとで治療がなされてきましたが、AS の患者さんは重症になつてから受診することが多く、手術に耐えられない状態になっていることもしばしばあります。重症 AS の 3815 例に対して行った後ろ向き研究で、早期に AVR をした方が保存的治療よりも予後の改善が得られることが判明し、AS に対する治療の考えはこれまでの「watchful waiting」という考えから、「軽症の段階から AVR を行っていく」というものに変わってきています。また、AS に対するカテーテル治療である TAVI が近年注目されてお

適応は増えていくだろう、とのことでした。また、京大病院が中心となつて K-TAVI レジストリーというシステムを作り、京大の関連病院での TAVI の成績をタイムリーに開示することで TAVI の技術面での進歩を進めようとしている、とのことでした。続いて写真撮影の後、支部総会及び懇親会が行われました。懇親会では先生方の近況報告も行われ、先生方は私たちが学生にも優しく声をかけてくださり、先輩方のお話を楽しく伺わせていただきました。このような貴重な会に参加させていただきまして、感謝の意を表し、報告とさせていただきます。(文責：5 回生 高屋 龍生)



和やかに行われた岐阜支部総会の後、写真撮影



山極総長と和やかに

【岐阜】

平成28年5月27日

(目)、岐阜会館にて、芝蘭会岐阜支部学術講演会が開催されました。講演会では、富田栄一先生の司会のもと、京都大学総長の山極壽一先生がお話しをされました。「家族と病気の起源を探る」と題され、座長は清水克時先生がお務めになりました。

ヒトの有効個体数は、チンパンジーの5万2000より9万6400と比べ、約1万と小さいです。それから、現代人のポトルネットワークと呼ばれる人口の大規模な減少が3万1000年前より5万5000年前に起き、人口の80%も減少しました。創始者効果と集団の小ささが、集団の多様性を下げました。

ゴリラは、人間に比べて体が小さい赤ちゃんを産み、3年間母乳を飲み、お母さんの腕から1年離れることはないため泣く

支部だより

ことはほとんどなく、大きく育ちます。それに対して人間は、体の大きな赤ちゃんを産み、乳離れが早く、成長が遅いのに加えて、お母さんにつかまることができなくて、よく泣きよく笑います。人間は熱帯雨林から草原に進出して直立二足歩行を獲得しましたが、肉食獣に幼児を狙われるようになり、たくさん子どもを産む必要性がでてきました。子どもを早く離乳させれば出産できるの

で、離乳が早くなったのです。

大きな脳を手に入れた人間は、集団の規模を増大することが可能になりました。また、人間はアフリカ大陸を出て全世界のほとんどの地域に分散しました。その後、定住社会を築き上げ、動物の家畜化に成功して農耕・牧畜を開始しました。

人間は見返りを求めずに奉仕する家族の論理と、お返しが期待できる

消化器内科で学術講演



妹尾先生の講演が行われた大阪支部総会

【大阪】

平成28年6月11日

ア大阪にて芝蘭会大阪支部総会が開催されました。総会では、津村

助け合いのみをする集団の論理を両立すること、より大きな集団を形成することが可能になりました。

これら小さな有効個体数、ポトルネットワーク、多産家族、多様な環境、大規模過密集団、定住社会、高い移動性、家畜等の要

このような貴重な機会を与えてくださったことに感謝の意を持って、芝蘭会岐阜支部の報告を終わらせていただきます。(文責：2回生 松本一希)

剛彦先生の進行のもと、隠岐尚吾先生の会長あいさつがあり、秋元正行先生が議長に選出されました。

中山正吾先生の諸報告、金岡裕夫先生の会計監査報告が行われた後、京都大学大学院医学研究科消化器内科学教授の妹尾浩先生による学術講演「京都大学消化器内科の臨床・教育・研究」が行われました。最初に、消化器内科学講座の歴史、消化器内科のスタッフ、病棟、内視鏡検査数等の紹介がなされました。ピロリ菌感染率は60代以上では70%以上ですが、20代では約20%と最近では減少傾向にあります。出血性潰瘍の病因でも、NSAIDs、低容量アスピリンは増加していますがピロリ菌は減少しています。また、HCVについては抗ウイルス薬の進歩により排除可能になってきており、慢性B型・C型肝炎の治療満足度・薬剤貢献度は2005年から2010年だけでも大幅に増加しています。

われています。転移性大腸がん化学療法では、分子標的薬により生存期間が2年半程まで伸びました。

iPS細胞については、ヒトにおいて幹細胞を排除して腫瘍全体を消滅させることはできないか、研究が進んでいるという旨のご講演をなされました。

学術講演の後、京都大学大学院医学研究科教授、医学教育推進センター長の小西靖彦先生による京都大学医学部現況報告が行われました。新任教授、病棟の改修の様子等の紹介や、京大医学部の教育改変、新専門医制度の紹介がなされました。

その後、記念写真撮影が行われ、続いて部屋を移して懇親会が行われました。先生方は私たち学生にも気さくに話しかけてくださり、貴重な話をたくさん伺うことができました。

会は終始和やかな雰囲気が進められ、皆さん非常に楽しんでおられるように見受けられました。

最後になりましたがこのように貴重な会にお招きくださったことに感謝の意をもって芝蘭会大阪支部総会の報告を終わらせていただきます。(文責：2回生 松本一希)

4 部に分けて学術講演会



4人の先生の講演があった阪神支部総会

【阪神】

平成28年6月18日(土)

ホテルホップインアミニングにて、平成28年度芝蘭会阪神支部総会が行われました。永井博之先生の司会のもと藤原久義支部長のあいさつから始まり、今回の学術講演会では、講演は4部に分かれていました。

一つ目は、よしだ循環器内科クリニック院長吉田和弘先生による「スベクトラック法を用いた心臓超音波検査の臨床応用とマラソン研究」でした。心筋が虚血

授、医学教育推進センター長の小西靖彦先生による京都大学医学部現況報告が行われました。新任教授、病棟の改修の様子等の紹介や、京大医学部の教育改変、新専門医制度の紹介がなされました。

その後、記念写真撮影が行われ、続いて部屋を移して懇親会が行われました。先生方は私たち学生にも気さくに話しかけてくださり、貴重な話をたくさん伺うことができました。

会は終始和やかな雰囲気が進められ、皆さん非常に楽しんでおられるように見受けられました。

最後になりましたがこのように貴重な会にお招きくださったことに感謝の意をもって芝蘭会大阪支部総会の報告を終わらせていただきます。(文責：2回生 松本一希)

得られました。しかしA群にはハイリスクな症例が含まれておりバイアスがかかっているため、どの症例でもまずドレナージが良いとはいえません。ドレナージは重症度Grade I、IIには効果的であり、腹腔鏡下胆嚢摘出術の完遂率が高くなるという結論でした。

三つ目の講演は兵庫県立尼崎総合医療センター消化器内科科長木村利幸先生による「開院1年を迎えて 消化器内科のご報告」でした。2015年7月より2016年4月の間に消化器内科には1747人が入院し、予定入院は940人緊急入院は807人でした。緊急入院の1/3は消化管出血、1/4は胆道炎症疾患、10%はイレウスで

イルス性肝炎の有病率もHepatitis同様若年層で激減しており、1日1粒12週飲みだけでC型肝炎ウイルスを排除できる新薬などの登場でウイルス性肝炎も消えていく疾患であるといえます。一方で増加している炎症としては炎症性腸疾患があり、IBD治療薬も日々進歩しているとのことでした。次に癌研究の紹介がありました。現在、癌にも幹細胞の存在が想定されており従来の化学療法では幹細胞の子孫細胞には効くものの治療抵抗性を有する幹細胞が残ってしまおうとされています。遺伝子組み換えによって幹細胞を青く染色すると子孫細胞にも青くなる性質が遺伝し追うごとに幹細胞がどのくらい分裂したのか計測できます。大腸腫瘍の腫瘍幹細胞を青く染色すると何日経っても腫瘍は青く染まり続けており、幹細胞からがん細胞が供給され続けていることが分かりました。そして腫瘍幹細胞のみを排除すると1週間10日もしないうちに腫瘍が縮小、丸つぶれとなりました。その一方で正常粘膜には何の影響もなかったそうです。腫瘍でも同様のことが分かっており、現在ヒトに適用できないか研究の真っただ中だとのことでした。

講演の後には同会場にて懇親会が開かれ、大変にぎやかな会となりました。このように素晴らしい場に招待してくださった芝蘭会阪神支部の皆様方に感謝の意を表しまして、報告を終わりとさせていただきます。(文責：6回生 小杉大輔)

人事異動

発令年月日	氏 名		異動内容
H28.4.30	後藤 謙元	辞任	ゲノム医学センター疾患ゲノム疫学准教授より開院へ
H28.4.30	國枝 武治	辞任	脳神経外科学講師より愛媛大学教授へ
H28.4.30	樋口ゆり子	辞任	健康長寿社会の総合医療開発ユニット特定講師より薬学研究科講師へ
H28.5.1	丸澤 宏之	昇任	消化器内科学講師より同准教授へ
H28.5.1	角田 茂	昇任	消化管外科学助教より同講師へ
H28.5.1	平塚 拓也	採用	病態生物医学助教より寄附講座（創薬医学講座）特定助教へ
H28.5.1	高橋 英彦	採用 (再任)	精神科神経科准教授（再任）
H28.5.1	山本 倫生	昇任	臨床研究総合センター助教より同講師へ
H28.5.15	篠原 尚	辞任	消化管外科学准教授より兵庫医科大学主任教授へ
H28.6.1	林 康紀	採用	理化学研究所チームリーダーよりシステム神経薬理学（薬理学第一）教授へ
H28.6.1	齊藤 晋	昇任	形成外科助教より同講師へ
H28.6.1	小林 果	採用	環境衛生学特定講師より同助教へ
H28.6.30	漆谷 真	辞任	神経内科准教授より滋賀医科大学神経内科教授へ
H28.6.30	川端 浩	辞任	血液・腫瘍内科講師より金沢医科大学血液免疫内科学特任教授へ
H28.7.1	湊谷 謙司	採用	国立循環器病研究センター血管外科部長より心臓血管外科学教授へ

発令年月日	氏 名		異動内容
H28.7.1	小濱 和貴	採用	京都市立病院外科副部長より消化管外科学准教授へ
H28.7.1	山本 典生	辞任	耳鼻咽喉科・頭頸部外科助教より同講師へ
H28.7.1	中川 正宏	採用	コロンビア大学メディカルセンターポスドク研究員より メディカルイノベーションセンターDSK（Ⅱ期）特定講師へ
H28.7.31	河合 勝也	辞任	形成外科学准教授より長浜赤十字病院形成外科部長へ
H28.7.31	奥野 恭史	辞任	寄附講座（臨床システム腫瘍学講座）特定教授より 人間健康科学系専攻教授へ
H28.7.31	日下部 徹	辞任	メディカルイノベーションセンター 特定准教授より 京都医療センター臨床研究センター内 分泌代謝高血圧研究部室長へ
H28.8.1	實吉 岳郎	採用	理化学研究所研究員よりシステム神経薬理学准教授へ
H28.8.1	松本 理器	採用	てんかん・運動異常生理学講座（寄附）特定准教授より 臨床神経学准教授へ
H28.8.1	西 英一郎	採用	循環器内科特定准教授より循環器内科学講師へ
H28.8.1	石井 暁	採用	脳神経外科特定講師より脳神経外科学講師へ
H28.8.1	坂本 昭夫	採用	国立病院機構小倉医療センター整形外科医長より 整形外科科学講師へ
H28.8.1	錦織 桃子	昇任	血液・腫瘍内科助教より同講師へ
H28.8.1	恒藤 暁	採用	緩和医療科特定教授より人間健康科学系専攻教授へ

会 員 計 報 (敬称略)

謹んでご冥福をお祈りいたします。

植村 良雄	昭和 20 年専卒	平成 28 年 5 月 6 日	ご逝去	田村 時緒	昭和 32 年	平成 28 年 4 月 7 日	ご逝去	小林 積子	教室会員	病理学	平成 27 年 8 月 8 日	ご逝去
森村 良雄	昭和 21 年薬卒	平成 28 年 5 月 10 日	ご逝去	安達 百成	昭和 33 年	平成 27 年 11 月 4 日	ご逝去	片岡 昌子	教室会員	内科 3	平成 3 年	ご逝去
汐見 文隆	昭和 22 年	平成 28 年 3 月 20 日	ご逝去	塚田 欣司	昭和 33 年	平成 25 年 12 月 26 日	ご逝去	堀 一郎	教室会員	内科 3	平成 27 年 3 月	ご逝去
滝井 登	昭和 22 年	平成 28 年 7 月 20 日	ご逝去	三木 成仁	昭和 33 年	平成 28 年 6 月 27 日	ご逝去	植山 育一	教室会員	内科 3		ご逝去
大林 直之	昭和 23 年	平成 28 年 4 月 28 日	ご逝去	福田 鎮雄	昭和 33 年薬卒	平成 27 年 9 月 27 日	ご逝去	鳥居 稔	教室会員	小児科	平成 28 年 3 月 7 日	ご逝去
浅野 修	昭和 23 年専卒	平成 28 年 6 月 18 日	ご逝去	郡田 義光	昭和 35 年	平成 28 年 5 月 23 日	ご逝去	山田 光	教室会員	小児科	平成 28 年 2 月 3 日	ご逝去
立花 省吾	昭和 24 年	平成 28 年 7 月 20 日	ご逝去	塩 栄夫	昭和 38 年	平成 28 年 4 月 30 日	ご逝去	金内 三郎	教室会員	皮膚科	平成元年 11 月	ご逝去
名取 至誠	昭和 24 年	平成 28 年 7 月 9 日	ご逝去	下野登士男	昭和 38 年	平成 28 年 5 月 2 日	ご逝去	柴 良武	教室会員	耳鼻科	平成 28 年 7 月 8 日	ご逝去
石井 大三	昭和 24 年専卒	平成 28 年 4 月 29 日	ご逝去	山本 尚甫	昭和 39 年院卒	平成 28 年 6 月 26 日	ご逝去	井上 嘉橘	教室会員	整形外科	平成 17 年 7 月 31 日	ご逝去
安達 直弥	昭和 25 年専卒	平成 27 年 11 月 13 日	ご逝去	井上 紀彦	昭和 42 年	平成 27 年 7 月 9 日	ご逝去	末沢 登	教室会員	整形外科	平成 28 年 5 月 19 日	ご逝去
稲葉 宣雄	昭和 25 年専卒	平成 28 年 7 月 4 日	ご逝去	樋渡 章二	昭和 50 年	平成 27 年 12 月 22 日	ご逝去	手島 宰三	教室会員	整形外科	平成 24 年 1 月 9 日	ご逝去
森下 和彦	昭和 27 年	平成 28 年 3 月 23 日	ご逝去	三輪 健一	昭和 52 年	平成 28 年 3 月	ご逝去	長岡 正泰	教室会員	整形外科	平成 26 年 9 月 29 日	ご逝去
神藤 昭男	昭和 30 年	平成 28 年 6 月 23 日	ご逝去	池田 康雄	昭和 55 年院卒	平成 28 年 3 月 16 日	ご逝去	松本 禎仁	教室会員	整形外科	平成 26 年 3 月 3 日	ご逝去
宇都宮綱夫	昭和 32 年	平成 15 年 5 月 10 日	ご逝去	松島 正弘	平成元年	平成 18 年 12 月 7 日	ご逝去	月出 勉	教室会員	整形外科、解剖 3	平成 21 年 11 月 22 日	ご逝去
竹田 俊男	昭和 32 年	平成 28 年 1 月 16 日	ご逝去	金内 修	教室会員 薬理、皮膚科	平成 28 年 3 月 30 日	ご逝去	船阪 和彦	教室会員	精神科	平成 28 年 7 月 8 日	ご逝去

原稿募集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場
であります。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介(自
薦・他薦)及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿
ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、
編集委員会で決めさせていただきます。

芝蘭會報 編集委員會

●事務局から●

平成 17 年 4 月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便または FAX により事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。
(FAX 075-752-4015)



芝蘭会館がご利用いただけます

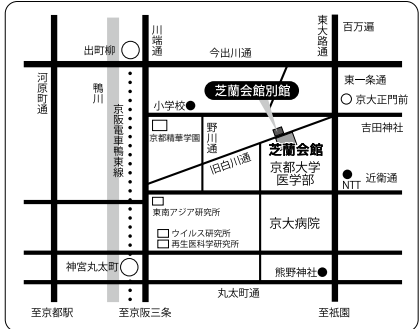
学会やシンポジウムへのご出席はじめ、同窓会などのお集まりや、
京都観光のご宿泊に、
芝蘭会館別館[国際交流会館]を
ご利用ください。

一般社団法人 芝蘭会 (しらんかい)

芝蘭会館別館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 11-1
Tel. 075-771-0958 Fax. 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
<http://www.shirankai.or.jp>

レストラン [しらん] Tel. 075-752-1027



芝蘭会館別館へのアクセス

- 京京都駅から
- D2 東場 バス 206 系統「東山通北大路バスターミナル」行
「京大正門前」下車徒歩 2 分
- 地下鉄「国際会館」行「今出川」下車出口 3 番、
市バス 201 系統「百万遍・祇園」行乗換「京大正門前」下車徒歩 2 分
- 阪急河原町駅から
- 出口 6 番 市バス 201 系統「百万遍・祇園」行、31 系「統熊野・岩倉」
行「京大正門前」下車徒歩 2 分
- 京阪大町柳駅から 徒歩 15 分

客室ご利用料金（税込）

シングル	(18室)	定員1	6,800円
ツイン	(3室)	定員2	12,700円(シングルユース10,400円)
デラックスツイン	(1室)	定員2	15,000円(シングルユース12,700円)

- 宿泊室（全室洋室）は、バス、トイレ、テレビ、冷蔵庫、インターネットジャック付きです。
- 芝罘会員（会費納付者）は宿泊利用料金を、1,000 円割引させていただきます。
- チェックインタイムは午後 3 時、チェックアウトタイムは午前 10 時となっております。
- キャンセルについては、3 日前より宿泊利用料金の半額を請求させていただきます。

研修室・会議室ご利用料金（税込）

ご利用時間	9:00～12:00	13:00～12:00	18:00～22:00	超過料金
研修室 1・2 定員 60 名	15,000 円	18,400 円	18,400 円	4,600 円
会議室 B1 定員 20 名	9,800 円	11,500 円	11,500 円	3,000 円
和 室 1・2 定員 10 名	6,300 円	8,000 円	8,000 円	2,300 円